

取引先の海外輸出支援

常陽銀・足利銀 貿易2社と組む

めぶぎフィナンシャルグループ(FG)傘下の常陽銀行と足利銀行は13日、取引先企業の海外輸出を支援するため貿易会社2社と組んだと発表した。取引先を2社に仲介し、手間がかかる貿易関連の事務手続き代行や海外との交渉、人員の派遣や研修などのサービスを提供する。需要を掘り起こし、外国為替取引関連収益の拡大につなげる。

常陽銀と足利銀が業務協力協定を結んだのは、

シンガポールに拠点を置いた。常陽銀と足利銀は取引先企業に対して輸出支援サービスを案内し、どのような商品をどの国・地域へと輸出したいかを記入する「エントリーシート」を提出してもらう。当面数十社からシートを集めることを目指す。同シートの情報は2行で共有し、必要に応じて沼尻産業やユーワールドに提供。通関事務や物流、代金回収などを手掛ける2社が、海外のバイヤーに対し商品を売り込んだり、バイヤーから要望のあった商品を選んだりする際に使う。

輸出品目では常陽・足利2行が地盤とする北関東で盛んな食品関連が主となるが、機械・装置類などの輸出も見込む。2行の外国為替取扱高のうち輸出決済にあたる「被仕向為替」は、常陽が21

億1800万米ドル、足利が10億9200万米ドル(いずれも2016年3月期)で、拡大を目指す。